

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

広島市立中広中学校

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成 21 年 4 月 21 日 (火)

3 調査実施学校数 (公立学校) 等

区 分	調査実施校数 (校)			調査実施者数 (人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第 6 学年	21,482	545	140	1,137,844	26,002	10,870	—
中学校第 3 学年	9,851	247	64	1,033,909	23,033	9,025	155

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題 [A問題]

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題 [B問題]

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
69.9	72.9	71.9	—	50.5	53.8	53.2	—	78.7	81.3	80.7	—	54.8	56.6	57.1	—

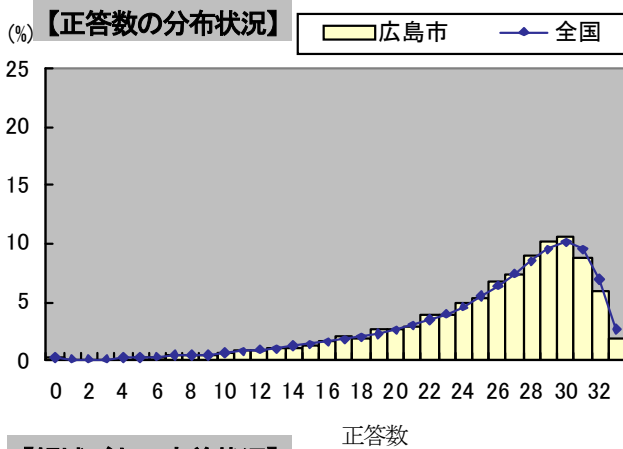
【中学校】

国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
77.0	77.6	76.6	74.0	74.5	74.8	73.7	69.3	62.7	62.9	62.3	55.2	56.9	56.2	55.1	46.3

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	86.8	86.5	86.4
書くこと	64.6	64.8	60.5
読むこと	75.7	75.2	73.4
言語事項	76.0	75.6	72.2

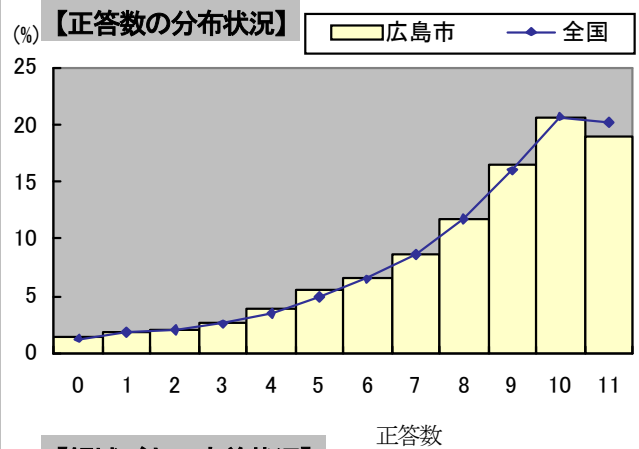
【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.0	75.8	72.5
短答式	78.4	77.7	76.1
記述式	—	—	—

定着状況

- 「話すこと・聞くこと」については、話の内容から必要な情報を聞き取る力が定着している。
- 「書くこと」については、文章を推敲する力、根拠を明らかにして論理の展開を工夫して書く力が十分に定着していない。
- 「読むこと」については、文章の展開に即して読み取ることはできているが、文章と図表を関連づけて読み取ることが苦手である。
- 「言語事項」については、文脈に即して漢字を書く力が弱い。

国語 B



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	72.5	71.5	67.2
読むこと	74.5	73.7	69.3
言語事項	—	—	—

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	70.2	69.9	67.3
短答式	82.0	81.0	74.7
記述式	72.5	71.5	67.2

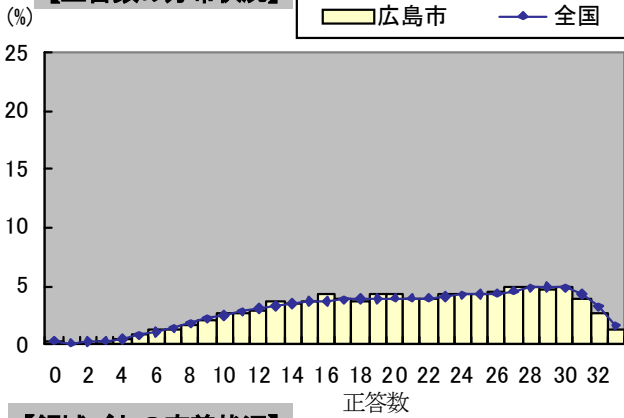
課題

- ペアやグループで読み合う活動を取り入れ、表現の仕方を学び合わせることによって、推敲の力を高める。
- 複数の資料を関連づけて読む学習や、グラフや表などから読み取ったことを言葉でわかりやすく説明する学習を行い、読む力を高める。
- 作文や五行日記などに既習の漢字を使って書くように指導する。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	67.3	66.7	61.4
図形	64.6	64.4	57.1
数量関係	56.2	55.8	47.2

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	60.5	60.2	53.5
短答式	66.1	65.5	57.8
記述式	—	—	—

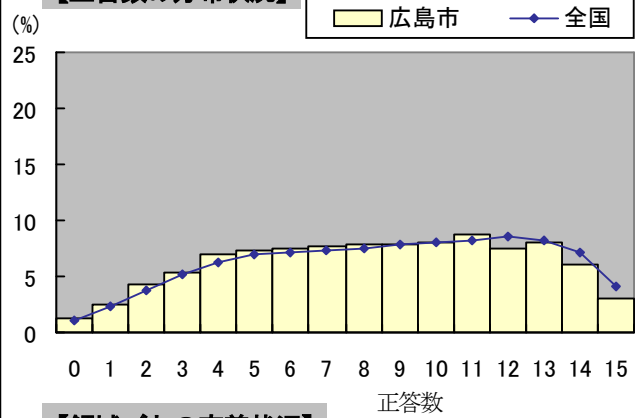
定着状況

○問題Aについては基本的な問題が多いが、正答率も低く、残念な結果であった。基本的な問題の理解ができていない生徒が多いことが明らかになった。

○問題Bでは、無回答が多く、じっくりと考えて答えを導き出すことができていない。問題Aの基本的な事項がしっかりと理解できていないので正答率も低くなっていると考えられる。

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	61.4	58.5	52.0
図形	57.5	56.1	46.9
数量関係	54.1	52.4	42.9

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	61.6	59.8	53.3
短答式	70.3	69.8	60.0
記述式	40.6	37.7	27.0

課題

○問題A全正答率を65%程度まで上げていきたい。そのための対策として、授業で学習した内容をしっかりと定着させるためにドリル学習などに取り組む必要がある。

○問題B特に記述式では無回答も多く。粘り強く考え抜く力が必要である。授業でより難解な問題にもチャレンジさせ、数学的な思考の楽しさを味わえるよう工夫したい。